

多賀城市

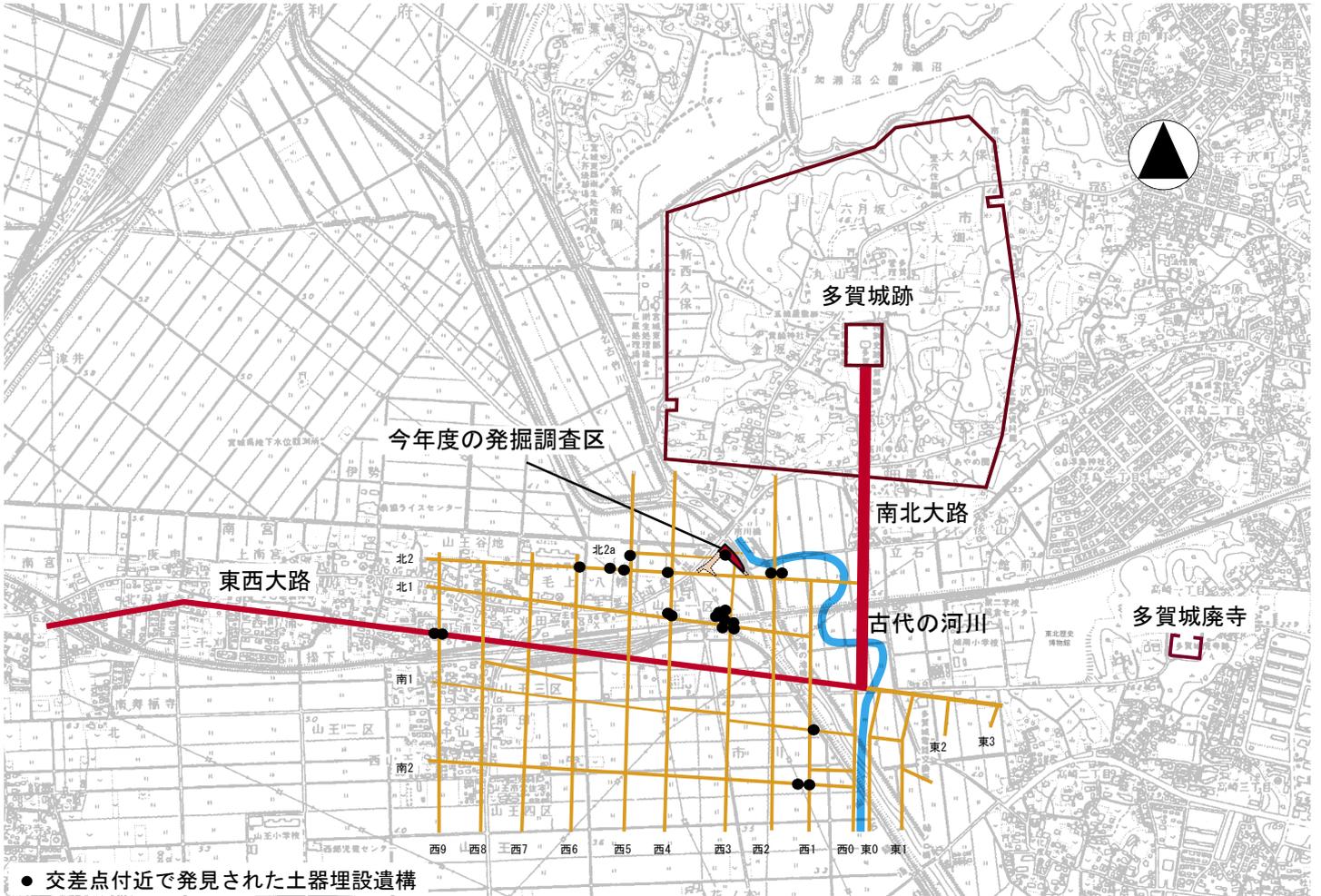
# 市川橋遺跡

平成18年度発掘調査 現地説明会資料

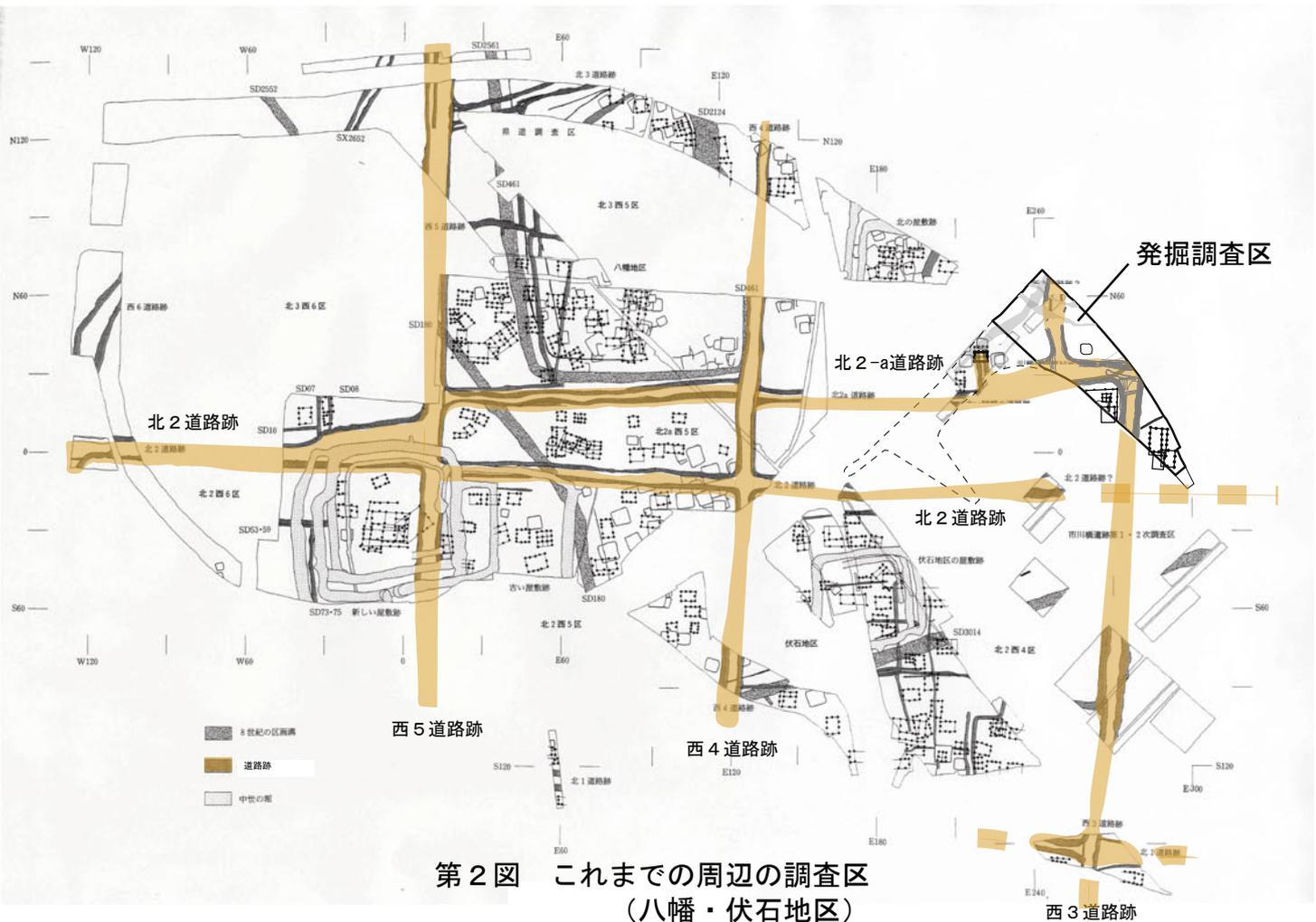


平成18年9月23日(土)午前10時30分～

宮城県教育委員会



第1図 発掘調査区の位置



第2図 これまでの周辺の調査区 (八幡・伏石地区)

## 1. はじめに

市川橋遺跡は、特別史跡「多賀城跡」の南側と西側に広がる標高 2 ~ 3m の水田地帯に位置する遺跡です。遺跡は東西 1.4km、南北 1.6km の範囲に広がり総面積は約 703,000 m<sup>2</sup>です。

遺跡周辺では、これまで多賀城市教育委員会、宮城県教育委員会によって数多くの調査がおこなわれ、弥生時代の遺物包含層、古墳時代の集落跡、奈良・平安時代の町並み、中世の屋敷跡などが見つかっています。各時期の遺構から弥生土器、土師器、須恵器、赤焼土器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦、金属製品、石製品、木簡などの木製品、漆紙文書など様々な遺物が見つかっています。

これまでの調査成果から周辺の状況を弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代にわけて見てみます。

### 【弥生時代】(紀元前 4 世紀 ~ 3 世紀)

現水田面から約 2.5m 下で、弥生土器の包含層が見つかっています。住居跡などは見つかりませんが、この周辺のどこかに弥生時代(中期)の集落が存在していたと考えられます。

### 【古墳時代】(4 世紀 ~ 7 世紀)

遺跡周辺跡では前期 ~ 後期を通じて集落が営まれ、特に後期には大きな集落がつけられていました。また、後期の集落付近の河川跡からはほぼ完全な形の丸木舟が見つかっています。

### 【奈良時代】(8 世紀)

724 年に陸奥国国府「多賀城」が造営されました。その後、「多賀城」南面には東西大路・南北大路といった基幹道路が造られました。さらに西に隣接する山王遺跡では漆・鍛冶工房が見つかっています。

### 【平安時代】(9 世紀 ~ 12 世紀)

9 世紀前葉になると「多賀城」の南面では東西大路・南北大路を基準にした多くの計画的な道路が造られ、約 120 ~ 130m 四方の碁盤目状の町並み(これを方格地割といいます。)が次第に整備されました。さらに、東西大路に面した区画は、格式の高い廂付建物跡や当時的高级品である中国産の白磁・青磁が見つかることから、都から派遣された国司が住んでいたと考えられます。東西大路を離れた区画では、小規模な建物跡が中心で、多賀城を支えた人々が暮らしていたとみられます。

なお、10 世紀後半になると南面の方格地割を形作っていた道路が維持されなくなり、国府「多賀城」とともに町並みも廃絶すると考えられています。

## 2. 発見した遺構

今回の調査では道路跡、土器埋設遺構、掘立柱建物跡、竪穴住居跡、堀跡、材木堀跡、溝跡、井戸跡、河川跡などが見つかりました。以下、時代別に主な遺構の概略を説明します。

## 〔古墳時代〕

調査区の北側で、南西から北東に流れる河川跡が見つかりました。堆積した土の上層からは奈良時代頃の土師器・須恵器が出土し、下層からは古墳時代後期頃（7世紀）の土師器が出土していることから、7世紀の流路と考えられ、平安時代にはほぼ埋まっていたようです。この河川跡の規模は幅約3m、深さ約1.5mで、市川橋10次調査で見つかった部分とあわせると長さ50m以上となります。

## 〔奈良時代〕

平安時代の道路跡下から東西方向の区画溝跡くかくみぞあとが見つかりました。堆積土からは8世紀代の土師器、須恵器が見つかりました。この溝跡の規模は幅約3m、深さ約1mで、長さ約20m以上となります。

## 〔平安時代〕

平安時代の遺構には道路跡、土器埋設遺構どきまいせついこう、掘立柱建物跡ほったてばしらたてもものあと、塀跡などがあります。ここでは道路跡と掘立柱建物跡について見てみます。

### 道路跡と土器埋設遺構

西3・西3-a南北道路跡2条、北2-a東西道路跡1条とこれらの交差点2箇所が見つかりました。道路跡は両側には素掘りの溝（側溝）が掘られています。

#### 〔路面〕

北2-a東西道路では、路面は盛土して2回造り作り直されています（第4図）。もっとも新しい路面Cには10世紀前葉ころに降灰した灰白色火山灰こうばい かいはくしよくかざんばいが見られました。

#### 〔側溝〕

側溝は2番目の路面Bの時期には改修されませんが、最も古い時期の路面Aの時期に2回、最も新しい路面Cの時期に1回ほぼ同位置で掘り直されています。

#### 〔西3道路と西3-a道路〕

第5図にある北2-a東西道路と西3南北道路の交差点についてみると、北2-a東西道路跡の北側溝が東へ続き、西3南北道路跡の西側溝が北2-a道路より北で見られないことから、北2-a東西道路と西3南北道路は「T」字状に接続していたと見られます。したがって西3道路は北2-a道路より北側には造られなかったこととなりますが、その代わりに位置を西へ移動し、西3-a道路が造られたのではないかと考えられます。西3道路がそのまま造られなかった理由としては、今もすぐ東側に砂押川があるように、当ても河川がすぐ近くに位置していたためではないかと推測されます。

#### 〔土器埋設遺構〕

北2-a・西3-a道路の交差点中央部の路面Cを掘り込んで造られています。2個の土師器はじきの甕かめの口を合わせて、立てた状態で埋めたものです。使われた甕の大きさは口径約20cm、高さ約20cmと30cmのものです。このような土器埋設遺構は、今まで多賀城跡の周辺で30基ほど見つかり、交差点付近で見つかることが多いこ

とから道路に関連する祭祀さいしに伴うものと考えられています。

### 掘立柱建物跡ほったてばしらたてものあと

西 3 南北道路を挟んだ東西の区画で 5 棟の掘立柱建物跡ほったてばしらたてものあとを見つけています。いずれの建物跡も方向が道路跡と同じであることから道路と同じ時期のものと考えられます。

また、建物跡は柱穴の大きさが一辺 1m 前後の方形をなすもの（建物 3・4）と一辺 50cm 前後の方形をなすもの（建物 1・2・5）に分けられます。そして柱穴の大きい建物跡は西 3 南北道路の東側の区画で見つかり、この中には東側に廂を持つ格式の高いものがあります（建物 3）。

建物 1：東西 2 間（約 3.1m）、南北 2 間（約 2.9m）の総柱建物跡そうばしらたてものあとです。竪穴住居跡より新しいことを確認しています。柱と柱の間隔は約 1.5m です。柱穴は一辺が約 40cm の方形で 9 箇所すべてで見つかりました。柱はいずれも抜き取られています。

建物 2：東西 2 間（約 2.6m）以上、南北 2 間（約 5.0m）以上の建物跡で、南西部は調査区外へ広がります。竪穴住居跡より新しいことを確認しています。柱と柱の間隔は東西で約 2.6m、南北で約 2.8m です。柱穴は一辺が約 70cm の方形で、4 箇所で見つかりました。柱はいずれも抜き取られています。

建物 3：桁行 5 間（約 10.8m）以上、梁行 2 間（約 4.7m）の南北棟建物跡で東側に 1 間分の廂ひさしがつきます。建物 4 より古いことを確認しています。柱と柱の間隔は梁行が約 2.3m、桁行が約 2.1m です。柱穴は一辺が約 1m の方形で、12 箇所を確認しています。柱の痕跡は 9 箇所で見つかりました。

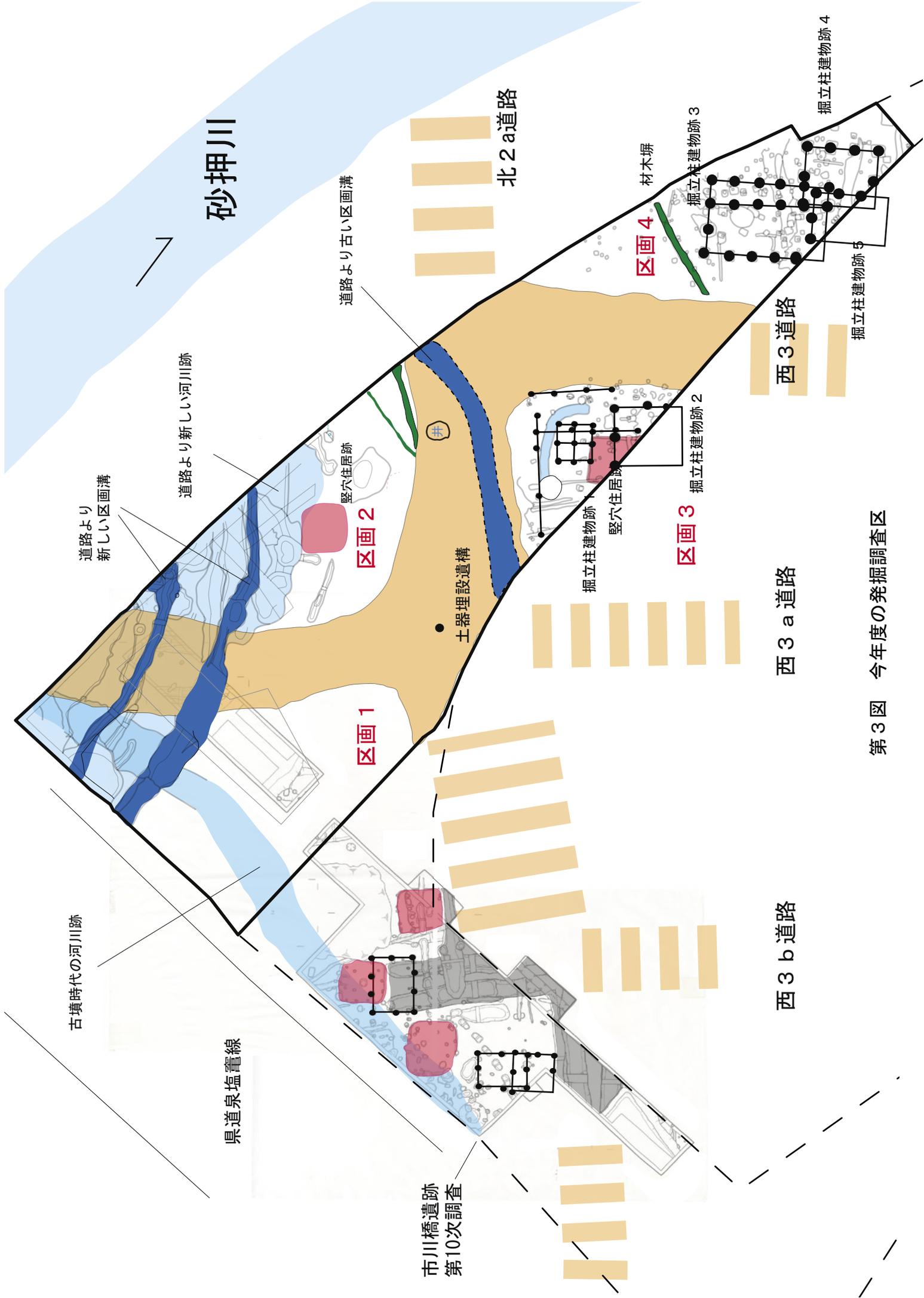
建物 4：桁行 3 間（約 8.6m）、梁行 2 間（約 5.4m）の南北棟建物跡で、南西部は調査区外へ広がります。建物 3 より新しいことを確認しています。柱と柱の間隔は桁行で約 2.1m、梁行で約 2.4・約 3.0m です。柱穴は一辺が約 1m の方形で、8 箇所で見つかり、いずれからも柱の痕跡が見つかりました。

建物 5：南北 2 間（約 4.0m）以上、東西 2 間（約 4.3m）以上の建物跡で、南西部は調査区外へ広がります。柱と柱の間隔は南北で約 2.0m、東西で約 2.0・約 2.3m です。柱穴は一辺が約 50cm の方形で、5 箇所で見つかりました。柱の痕跡は 3 箇所で見つかりました。

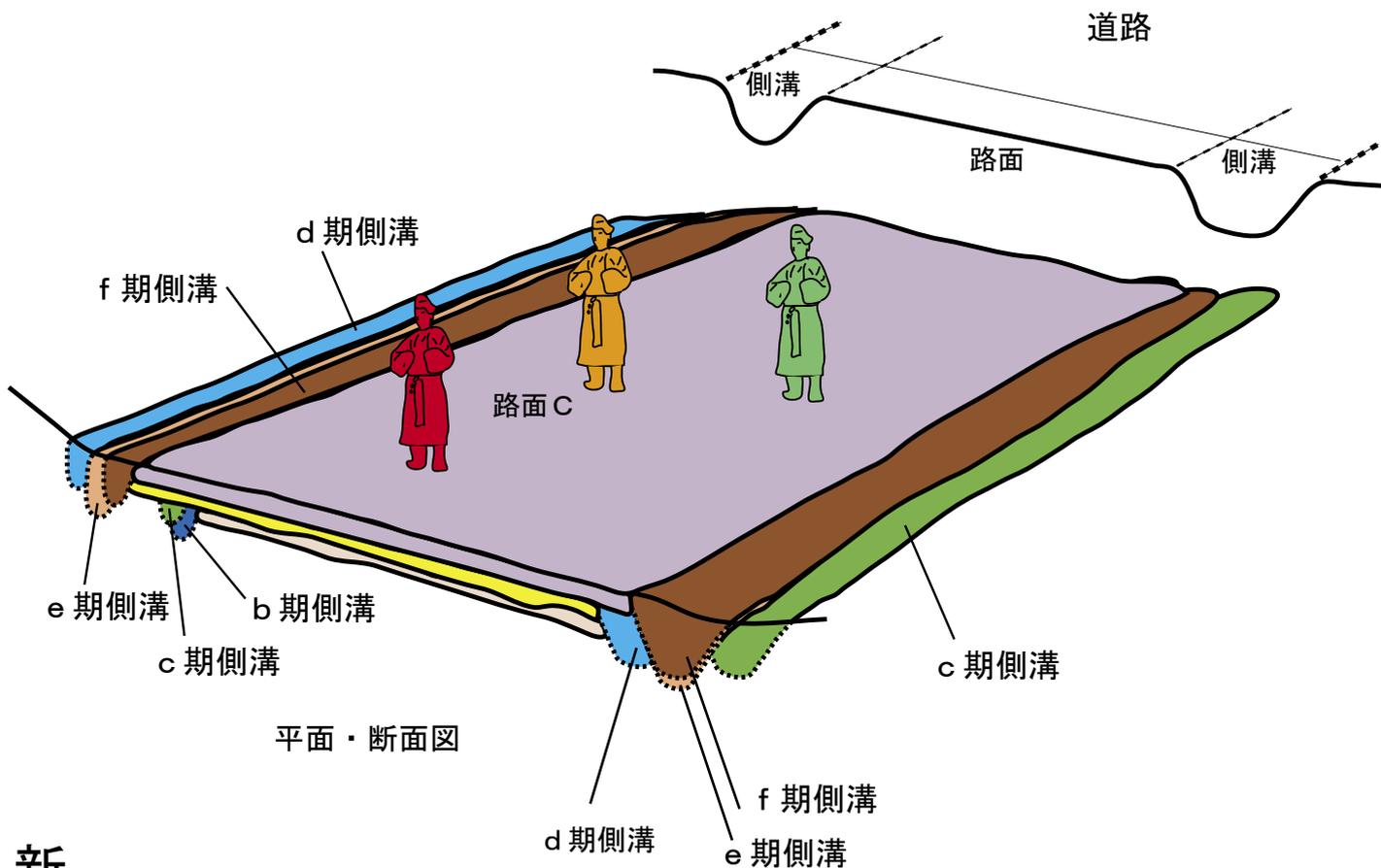
### 3. 発見した遺物

土師器はじき、須恵器すえきといった多数の土器や緑釉陶器りよくゆうとうきや灰釉陶器かいうゆうとうき、白磁碗はくじわんなど陶磁器とうじきが見つかりました。そのほかに瓦かわら、硯すずり、腰帯石具ようたいせきぐ、砥石といし、碗形滓わんがたさい、牛・馬の骨などがみつかりました。代表的なものを紹介します。

緑釉陶器りよくゆうとうき：「緑釉花文輪花皿」と呼ばれるもので東海地方の猿投産さなげです。全体の形がよくわかる形で見つかりました。当時としては高級な食器で、主に宴会用に使われ、身分の高い人が使用していたと考えられます。多賀城跡、多賀城廢寺跡、齋宮跡さいくうあとで出土例があります。



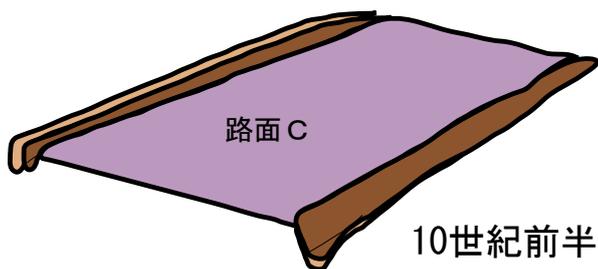
第3図 今年度の発掘調査区



新

路面C：e・f期に対応

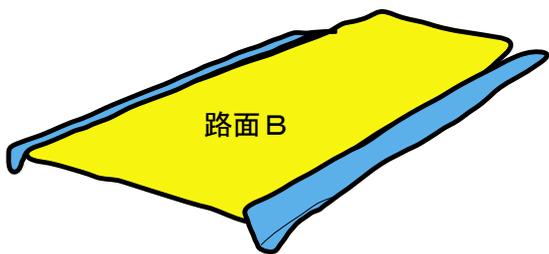
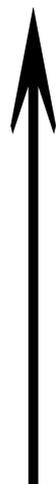
(e・f期の側溝は路面Cを掘り込む。)



10世紀前半

	道路	側溝心々	路面幅
f期	西3 道路	5.3m	4.0m
	西3-a道路	4.3m	2.5m
	北2-a道路	6.2m	4.8m
e期	西3 道路	5.4m	4.0m
	西3-a道路	4.5m	3.6m
	北2-a道路	6.5m	5.1m

路面Cの構築土に灰白色火山灰(915年降灰)を含む。

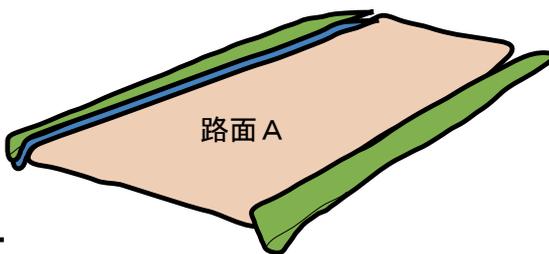


) 9世紀代

路面B：d期に対応

(d期の側溝は路面Cに覆われ、路面Bを掘り込む。)

	道路	側溝心々	路面幅
d期	西3 道路	5.9m	—
	西3-a道路	2.3m	1.4m
	北2-a道路	6.4m	(5.1m)



路面a：a・b・c期に対応

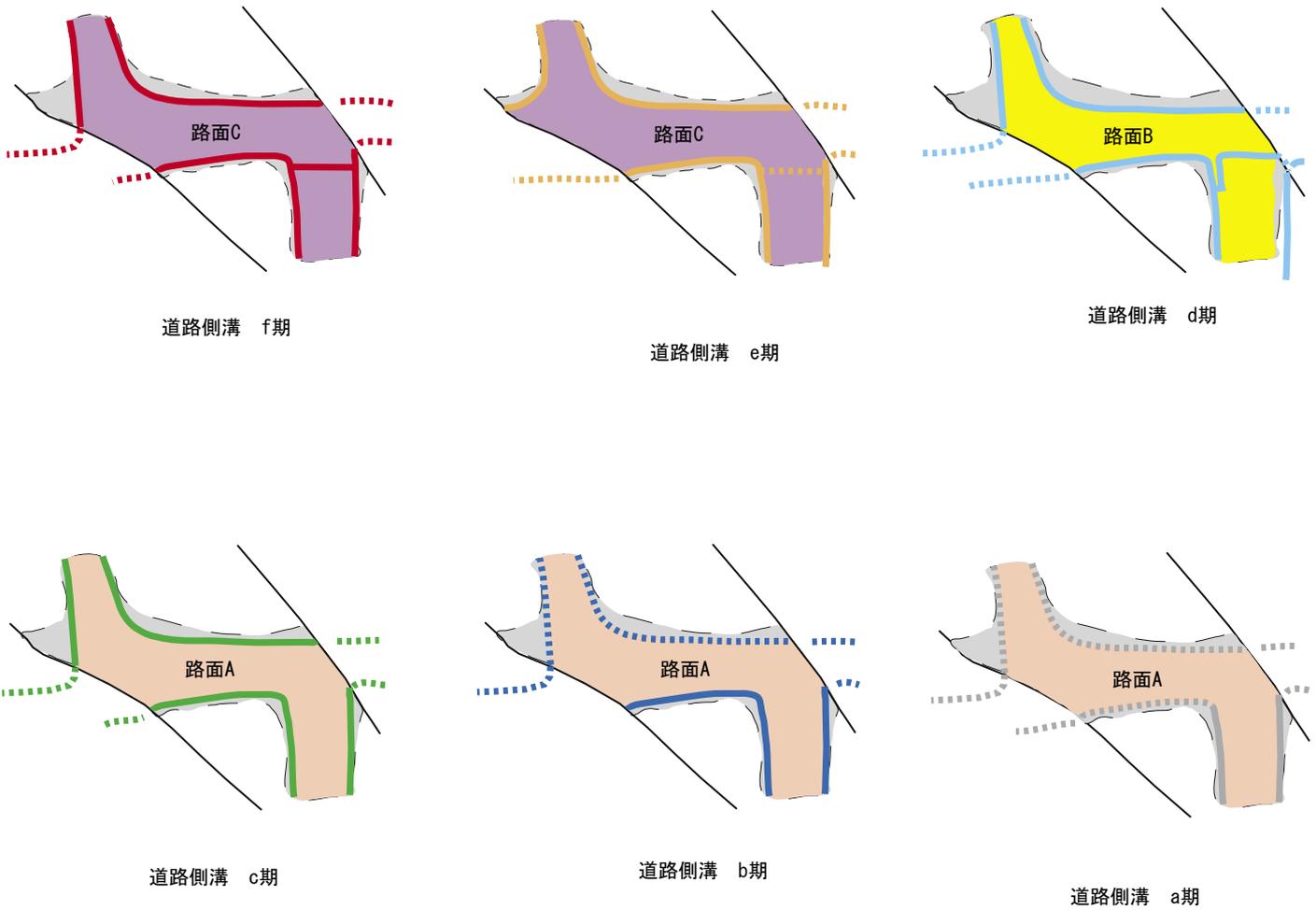
(北2-aではa期は未確認)

(a?・b・cの側溝は路面Bに覆われ、路面Aを掘り込む。)

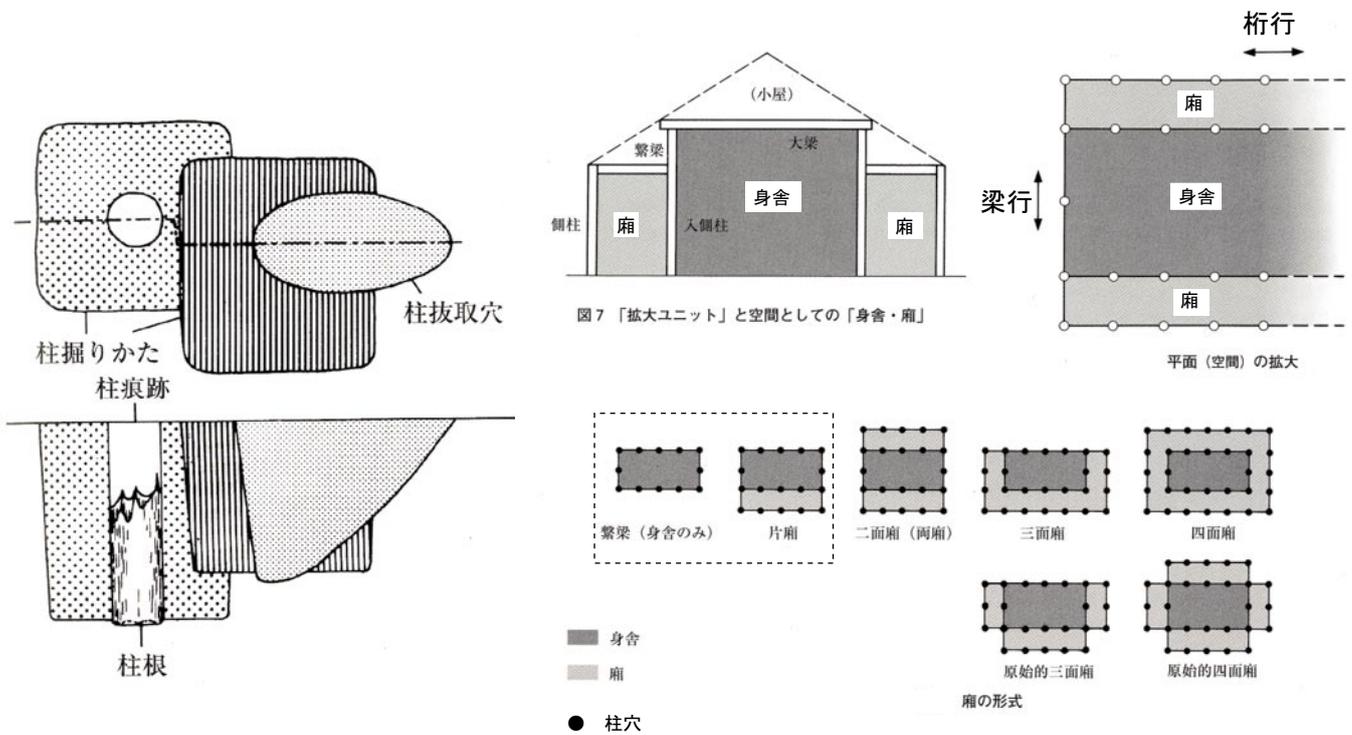
	道路	側溝心々	路面幅
c期	北2-a道路	5.4m	(4.2m)

古

第4図 道路模式図



第5図 北2a・西3・西3a道路の交差点の変遷



第6図 柱穴の概念図 建物跡の概念図

**白磁碗**：はくじわん 中国唐代とうだいに作られたもので、遣唐使けんとうしなどを通じて日本に渡ってきたものです。

**腰帯石具**：ようたいせきぐ 多賀城につとめていた役人が儀式などで正装した際に腰に締める腰帯じゅんぼうの石製の飾りで、巡方と呼ばれる方形の飾りです。

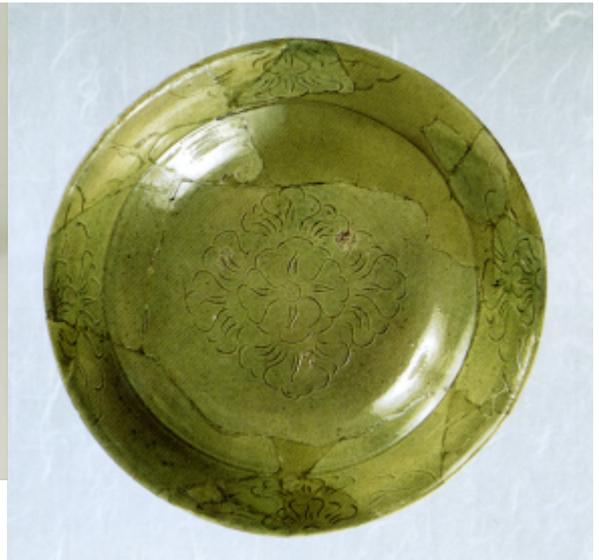
#### 4. まとめ

見つかった北 2-a 東西道路跡、西 3・西 3-a 南北道路跡は、9 世紀から 10 世紀前半にかけて機能していたことがわかりました。また、道路の側溝では 5 回の掘り直しを確認しました。

西 3 南北道路跡は北 2-a 東西道路跡に南から「T」字状に接続していると見られます。したがって西 3 南北道路跡は北 2-a 東西道路跡より北へは続かないこととなります。また、西 3-a 南北道路跡は西 3 南北道路跡と北 2-a 東西道路跡の交差点の西隣で北 2-a 東西道路跡に接続し、北へ続いています。この西 3-a 南北道路跡については西 3 南北道路跡が北 2-a 東西道路跡より北側に造られなかったことから、西 3 南北道路跡に代わって位置を西側に移動して造られた南北道路と考えられます。

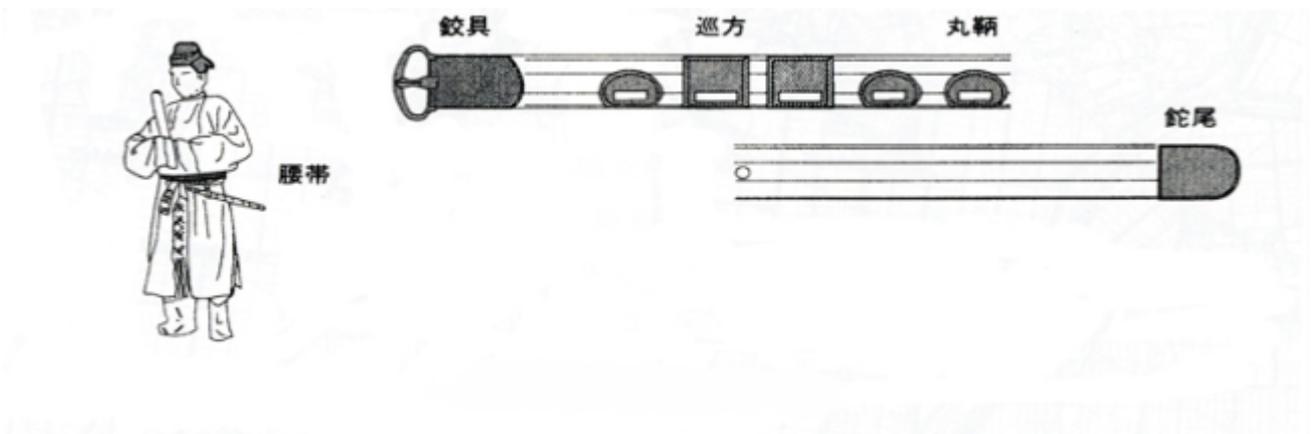
北 2-a 東西道路跡と西 3-a 南北道路跡の交差点中央部で、最も新しい路面 C から掘り込んでいる土器埋設遺構どきまいせついくわうを見つけました。土師器はじきの甕かめを合わせ口あわせぐちにしているものです。これまでの周辺における類例の多くと同様に道路の交差点を意識した祭祀さいしに関するものと考えられます。

西 3 南北道路跡の東西の区画の道路際で平安時代の掘立柱建物跡ほったてばしらたてもものあとを見つけます。狭い範囲での調査ですが、東側の区画では柱穴が大きい建物跡がみられ、この中の 1 棟は廂せうを持っています。一方西側の区画は柱穴が小さい建物跡が主体となります。区画の使われ方に違いがあるとみられます。



第7図 e期道路側溝出土「りょくゆうかもんりんかさ緑釉花文輪花皿」

第8図参考例 緑釉花文稜碗（斎宮跡44次）



第9図 腰帶石具模式図



道路跡全景（北から）



北2a道路と西3道路の交差点付近（北から）



北2a道路の南・西3道路西の区画3（東から）



北2a道路の南・西3道路の東の区画4（東から）



北2a道路と西3a道路の交差点にある土器埋設遺構



西3道路の西側溝から出土した馬の頭骨



北2-a道路の南側溝から出土した緑釉花文輪花皿